Manzanar

National Historic Site
National Park Service
U.S. Department of the Interior

Park brochure -- Japanese

Manzanar National Historic Site マンザナー（満座那）国定史跡	National Park Service 米国国立公園局
	U.S. Dept. of the Interior 米国内務省

マンザナー国定史跡にはるばるお越しいただき、誠ににありがとうございます。
Welcome to Manzanar National Historic Site

マンザナー国定史跡は、日米戦争における日系アメリカ人の強制収容と公民権を守ることの大切さを後世に伝えるために、1992年に米国政府により国定史跡に指定されました。また、2004年には資料館が開館しました。

日系アメリカ人の強制収容について

1941年12月7日、日本による真珠湾襲撃により日米戦争が勃発しました。そして、それは西海岸地域に住んでいた約12万人に及ぶ日系アメリカ人の運命を大きく変えました。日系アメリカ人は敵性外国人とみなされ強制収容の対象とされました。そして、多くの日系アメリカ人が戦争が終わるまでの数年間を強制収容所ですごさなければなりませんでした。日系アメリカ人の強制収容は、米国内における反日感情や日系アメリカ人に対する差別や偏見をもとに米国政府が正当な法的手段を無視して行った政策です。日系アメリカ人がスパイ容疑もしくは外患罪などで有罪判決を受けたり、罰されたことはありませんでした。

強制収容までのいきさつ

1942年2月、当時のフランクリン・D・ルーズベルト大統領は大統領行政命令9066号に署名しました。これにより、西海岸地域にて米国の軍事活動の妨げとなる人物などの排除が可能となりました。それは、西海岸地域に住んでいた約12万人におよぶ日系アメリカ人の強制収容を意味しました。強制収容にともない、人々はわずか数日のあいだに、財産の処分と収容所への移動準備を強いられました。ほとんどの人々が、持っていた土地や家、家財道具などの所有物をただ同然で売りはらうか、手放すことになったのです。強制収容に際し、生活に最低限必要な家財道具などが所持品として許されました。人々は、スーツケースに生活に必要なものや家族にとってとても大切なものを詰めて我が家を、そして住みなれた街を去り、指定された仮説の集合場に向かいました。その後、鉄道やバス、軍の車両により国内10ヶ所に設けられた強制収容所に収容されました。大統領行政命令の発令からわずか9ヶ月の間に、西海岸地域に住んでいた日系アメリカ人は強制収容所に送られたのです。

カリフォルニア州内に設けられた主な集合場

ストックトン	サンフランシスコ地区	サンタ・アニータ	ロサンゼルス地区
タンフォラン	同上	ポモナ	同上

サクラメント　カリフォルニア州北部

各地に設けられた強制収容所の一覧

マンザナー	カリフォルニア州	ジュローム	アーカンソー州
ツールレイク	同上	ローワー	同上
ポストン	アリゾナ州	アマチ	コロラド州
ヒラリバー	同上	ミニドカ	アイダホ州
ハートマウンテン	ワイオミング州	トパーズ	ユタ州

強制収容所での生活

日系アメリカ人の強制収容所は米国内でも特に住環境の劣悪な地域に設けられました。そのため、人々は住環境の改善に力を尽くしました。マンザナー強制収容所内には、ブロックと呼ばれた36ヶ所の居住地区がありました。ひとつの地区につき、14棟のバラック、大食堂、洗濯場、アイロン場、そして男女別の便所兼シャワー室がありました。バラック内にあった部屋の広さは縦幅が約6メートル、横幅が約7．5メートルでした。各部屋にはストーブと小さな電灯が設けられました。収容所にいる間、人々は住所、名前、そしてID番号が記された名札を常に携帯しなければなりませんでした。バラックは建て具合がとても悪く、収容された人々はすきま風やすきま風とともに入ってくる砂の対策に苦労しました。ブリキ缶の底を利用して床にある穴を埋めることもしばしばありました。後に、人々は壁紙やリノリウム製の床を使い住環境の改善に努めました。トイレとシャワー室には区切りがなく、水着を着てシャワーを浴びる人々や、誰もいないときにトイレを使う人々もいました。また、一部の女性用シャワー室には浴槽が設けられました。

庭造り ― 人々の憩いの場づくり

マンザナー強制収容所を含め、各地に収容されていた日系アメリカ人は収容所での辛い日々から解放されることを目的に、庭造りに励みました。各ブロックには、そのブロックに収容された人々によって庭が造られました。オリジナリティーあふれる手造りの庭は人々の憩いの場となりました。また、ブロックごとに庭の出来具合を競いあうこともありました。現在でも、人々によって造られた庭の跡を見ることが出来ます。

日系アメリカ人の米国政府への忠誠心

1943年、米国政府は日系アメリカ人が米国への忠誠心があるかどうかを調査しました。調査に際し、以下の質問を全ての強制収容所にいる日系アメリカ人に対して行いました。

質問1

あなたは米軍に従軍する意思はありますか。また、あなたは従軍した際に、どこの戦地へも出征する意思はありますか。

（次のページに続く）

（前のページから）

質問2
あなたは米国への忠誠を誓い、米国をいかなる脅威から守る意思はありますか。また、あなたは日本国の天皇、もしくは他国への忠誠心を放棄する意思はありますか。

収容されていた一世は、米国への帰化を拒否されていること、排日移民法、そしてカリフォルニア州外国人土地法などを理由に、「ノー」、と回答する人々がいました。なかには、日本国内の戦況を察し、「イエス」、と回答する人々もいました。「ノー」、と回答した人々やその家族の中には、米国政府により米国への忠誠心が無いとみなされ、カリフォルニア州北部にあるツール・レイク隔離収容所に送られました。

政府による強制収容と忠誠心の調査は日系アメリカ人同士に大きな亀裂を生じさせました。収容所内では、争い事や揉め事、ストライキなどが起こるようになりました。また、上記の質問に対し、「イエス」、と回答した人々への暴行事件がしばしば起きました。マンザナー強制収容所では、1942年12月6日に、収容所内の軍事警察の事務所前に集まった日系アメリカ人に対し軍事警察が発砲する、マンザナー暴動が発生しました。これにより、2人が死亡、10人が重軽傷を負いました。この事件による逮捕者は他の日系アメリカ人への傷害容疑で逮捕されたハリー・ウエノさんだけでした。

日系二世の従軍 ― 第100歩兵大隊、そして第442連隊戦闘部隊

米国政府による強制収容を受け、米軍への従軍により日系アメリカ人に対する差別および排斥を是正しよう考える人々がいました。しかし、日米開戦後、米国政府は敵性外国人であった日系アメリカ人の米軍への志願を拒否しました。その後、1944年に米国政府は日系アメリカ人に対する徴兵を認めました。日米開戦前に徴兵されていた人々とともに、日系二世部隊として知られる第442連隊戦闘部隊が編成されました。第442部隊はハワイで編成された第100歩兵大隊と共に、北アフリカ、そしてイタリアとフランスにおけるヨーロッパ戦線で大活躍し、米国の戦勝に大きく貢献しました。約26，000の日系アメリカ人が従軍し、9，000人以上の戦死者を出しました。その活躍ぶりから、米国史上最も栄誉ある戦闘部隊として現在でも知られています。

強制収容後の日系アメリカ人

日米戦争が終わった後、全ての強制収容所は閉鎖され日系アメリカ人の多くは住みなれた西海岸地域へと戻っていきました。なかには、シカゴやニューヨークなど、西海岸地域以外への地域に移り住む人々もいました。マンザナー強制収容所は日本の無条件降伏からわずか数ヵ月後に閉鎖されました。その後、長らく拒否されていた一世の帰化が、日本が主権を回復した直後の1952年に可能となりました。その後、1960年代の公民権運動を経て1988年に、当時のロナルド・レーガン大統領が日系アメリカ人補償法に署名しました。これにより、米国政府は強制収容を受けた日系アメリカ人に対し、公式な謝罪と一人あたり2万ドルの賠償金の支払いを行いました。

マンザナー周辺地域の歴史

マンザナー強制収容所のある地域はオーウェンスヴァレーと呼ばれています。今から約1万年前、この地域では先住民であるネイティブアメリカンが狩猟採集生活を営んでいました。

（次のページに続く）

（前のページから）

そして、今から約1，500年前にパイウート族が狩猟生活とともに、灌漑農業を行って定住をしていました。
19世紀半ばにカリフォルニアが米国の領土となると、ヨーロッパ系アメリカ人の移住が始まりました。新たにやってきた人々はパイウート族が生活を営んでいた土地で果樹園や、麦畑、酪農を営みはじめました。また、ヨーロッパ系アメリカ人の移住に際しては、騎兵隊などの武力によりその地域に長らく住んでいたパイウート族の土地を奪ったことも忘れてはなりません。20世紀になるとロサンゼルス市が市内の人口増加を理由にオーウェンスヴァレー周辺の水源とロサンゼルスを結ぶ水路であるカリフォルニア・アクアダクトの建設を始めます。水路の建設にあたってはオーウェンスヴァレー周辺の土地の収用が行われ、水路の完成とともにマンザナー周辺地域は過疎地帯と化してしまいました。また、この水路の使用によりマンザナー周辺地域への環境破壊が深刻な問題となりました。今でもそのつめあとをしっかりと見ることが出来ます。日米戦争の勃発直後、米国陸軍はロサンゼルス市からオーエンスヴァレー周辺の約2，500ヘクタールの土地を借り、マンザナー強制収容所の建設を始めました。建設に際しては、数少なくなった地元住民や、かつて住みなれていた土地を無理やり奪われたパイウート族の姿も見られました。また、地元住民の中には日系アメリカ人の強制収容所建設に反対する人々もいました。

マンザナー強制収容所に関する資料、または書籍

ジーン・ワカツキ・ヒューストン、ジェームス・D・ヒューストン共著、「さらばマンザナー」
Jeanne Wakatsuki Houston and James D. Houston, “Farewell to Manzanar.”

上記の史料、もしくは書籍は資料館にある売店にて購入可能です。是非お買い求めください。

東カリフォルニア博物館に関する情報

マンザナー強制収容所に関する資料はマンザナー国定史跡から約5マイル北上したインディペンデンス市内にある東カリフォルニア博物館（英名　Eastern California Museum）でも展示されています。是非お立ち寄りください。開館時間は火曜日を除く午前10時から午後4時までです。電話番号は、760－878－0258です。

マンザナー国定史跡へのお問い合わせ

住所	Manzanar National Historic Site	マンザナー国定史跡
	5001 U.S. Highway 395	5001番　米国国道395号線
	Independence, California 93526-0426	カリフォルニア州インディペンデンス市
	P.O. Box #426	私書箱426番

電話番号　　760－878－2714 （内線番号　2710）

重ねて、本日はマンザナー国定史跡にお越しくださり誠にありがとうございました。
お車を運転の際には安全運転に心がけてください。　マンザナー国定史跡職員一同

マンザナー国定史跡　Manzanar National Historic Site
オートツアーガイド　Auto Tour Guide

史跡内に設けられた番号とその説明文

１（収容所入口）
強制収容所の入口に2ヶ所建てられた警備小屋はカド・リョウゾウ氏によって建築されました。

２（警察署跡）　軍警察の発砲により2人が死亡、10人が重軽傷を負ったマンザナー暴動は1942年12月6日に、
このマンザナー警察署前にて発生しました。この事件による逮捕者はハリー・ウエノだけでした。

３（新聞社編集室跡）
強制収容所内で発行されたマンザナー・フリー・プレスの編集室の跡地です。この新聞は収容者からの購読料と広告収入により運営されました。

４（管理事務所跡）
収容所を管理する組織の事務所があった場所です。また、収容所の運営に携わる人々やその家族が居住した場所でもありました。また収容所内の公民館と郵便局はここに設けられました。

５（独身者居住地区）　1942年3月に未婚の収容者の為に第2ブロック内に設けられました。設置にあたっては、第2ブロック内の居住者とその他のブロックから来た約100人のボランティアが協力しました。

６（高等学校跡）
マンザナー高等学校は収容所内の第7ブロックにありました。収容所が設置された1942年から閉鎖されるまでの約3年間、生徒たちはここで学び、巣立っていきました。

７（体育館）
現在、資料館として使用されているこの建物は1944年に、収容者達により体育館として建設されました。学芸会や卒業式といった収容所内での特別な行事が行われた際に使われました。

８（消防署跡）
収容所内の第13ブロックに消防署が設けられました。収容所内で発生した火災などの災害や事故に対応しました。

９（南防火通路跡）
防火通路は火災などの災害が発生した際に被害の拡大を防止する為に設けられました。普段は収容者たちがここでテニスやバスケットボール、バレーボールなどをしていました。

10（第14地区跡）
現在、米国国立公園管理局は第14地区内に設置された食堂などの建造物の復元作業を実施しています。この際、食堂に使われた建物は2002年12月に隣接するローン・パイン　市から輸送されました。

11（写真工房跡）
ロサンゼルス市のリトル・トーキョーに在住していた香川県善通寺市出身の写真家、宮武東洋男氏とその家族が居住していた場所です。宮武氏は自らのカメラの部品を収容所に持ち込み、軍警察に隠れて収容所内にて収容者の生活を撮影していました。後に、軍警察は宮武氏の収容所での撮影活動を許可しました。マンザナー国定史跡のパンフレットや資料館内部の展示写真には宮武氏が撮影した写真が多く使用されています。

12（農場跡）　収容所が建設される前の1900年代、この地にはケンプ・レンバック農場がありました。

13（野球場）
第19ブロックと第25ブロックの間に野球場がありました。野球場は収容所内に2ヶ所に設けられました。この野球場は2ヶ所設けられた野球場のうち、　大きいものでした。

14（カトリック教会跡）　カトリック教徒の為の礼拝施設が設けられた場所でした。

15 （旧市街地跡）
1910年ごろまで、この地域には約25世帯が居住していた旧インディペンデンス市街地がありました。しかし、1920年代のロサンゼルスによる取水権取得と周辺地域の土地収用により市街地はさびれてしまいました。

16 （シェファード牧場跡）
ジョン・シェファード氏が1864年から1905年にかけて牛や馬、ロバの飼育と穀物の栽培を行いました。後にジョージ・チャフィー氏がシェファード氏の牧場を買い取り、りんご農園を展開しました。

17 （チャフィー果樹園跡）
チャフィー氏が経営したりんご農園があった場所です。果樹園内に存在した樹木の一部は現在も生きています。

18 （庭園跡）
第34ブロックの居住者により造られた庭園の跡です。収容者により造られた庭園の中で最も精巧な庭園といわれています。

19 （ワイルダー農場跡）
この地域にて、ロミオ・ワイルダー氏とその家族が1908年から1925年までにかけてりんご農園を営んでいました。ワイルダー家の屋敷跡はオートツアー順路の西側約150メートル先にあります。ワイルダー氏はマンザナー（りんご園）の名付け親でもあります。

20 （病院跡）
収容所に設けられた病院があった場所です。病院内には洗濯場や暖房施設、手術室、庭園、霊安室などがありました。これらの施設の基礎部分はオートツアー順路の西側にあります。

21 （孤児院跡）　101人の日系アメリカ人などの孤児達がここで生活をしていました。

22 （墓地）
この墓地にて、収容所内で死亡した150人のうちの15人が埋葬されました。戦後、遺族により9人の遺体が引きとられました。現在、この墓地にて6人が埋葬されています。収容所内で死亡した人々の多くは火葬されました。

23 （仏教寺院跡）
収容所内に設けられた3ヶ所の仏教寺院のうち、1ヶ所がここにありました。また、その他の寺院は第13ブロックと第27ブロックにありました。

24 （庭園跡）　収容者たちによってつくられた第12地区の庭園の跡です。

25 （第9、第10地区跡）
ロサンゼルスの南部に位置するターミナルアイランドから来た人々が収容した地域です。ターミナルアイランドに住んでいた日系アメリカ人がはじめにマンザナーに収容されました。

26 （第3地区跡）
1942年4月1日にワシントン州バインブリッジアイランドから2027人が居住していました。この地域の住人は列車によりマンザナーに移送されました。

27 （工場跡）
陸軍が使用する迷彩網の作製が行われた場所です。当時、迷彩網の作製は二世である米国市民のみに許されていました。

皆様へのお願い　公園内での安全運転にご協力ください。　また、公園の美化と環境保全にご協力ください。
マンザナー国定史跡職員一同　米国国立公園局

２００７年１月　マンザナー国定史跡 （インディペンデンス、カリフォルニア州）